

# 会 議 録

会議名	令和4年度第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和4年7月28日(木) 10:00~11:30
開催場所	オンライン(Webex)
出席者	(出席委員) 原真志(会長)、佐藤友光子、村井花子、草薙めぐみ、大井一栄、嶋田悟、三谷洋勝、増田美樹、保科太志 (欠席委員) 高濱和則(副会長)、高木和代、角野幸治、高島弘武、高田学、佐野尚文、元木ひより(敬称略)
議 題	(1)令和3年度事業実施状況及び令和4年度事業実施予定について (2)その他
傍聴者	0人
事務局	(中心市) 丸亀市市長公室長 山地幸夫 丸亀市秘書政策課 課長 窪田徹也、政策マネジメント室 室長 高倉鋭悟、総括担当長 宇野大志郎 (関係市町) 善通寺市政策課 課長 佐藤幸治、課長補佐 小河啓二、主事 山崎嵩雄 琴平町企画防災課 課長補佐 小縣真弓 多度津町政策観光課 課長補佐 柏木章敬 まんのう町企画政策課 課長 鈴木正俊、課長補佐 溝淵浩一
発言者	議事の概要及び発言の要旨
窪田課長	ただ今より、令和4年度第1回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。議事に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。以後の議事につきましては、会長に議長をお願いします。
原会長	それでは、議事に入ります前に、本日、委員総数16名中9名の出席をいただいておりますので、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告させていただきます。 本日の議事につきまして、1点目の「令和3年度事業実施状況及び令和4年度事業実施予定」について事務局より説明をお願いします。
宇野	(資料に基づき説明)
三谷委員	「病院群輪番制の維持・充実」のように、将来的には2市3町に限らず、坂出市や宇多津町等とも協力しながらスケールメリットを生かした取組を進めるべきで、特に免許返納が進む中、公共交通の充実に向けた取組を前向きに進めていただくよう要望します。
宇野	人口減少や少子高齢化が進む中で、広域による取組は今後より一層必要になるものと認識しています。2市3町の定住自立圏域を一つの枠組みとして、共生ビジョンに基づく取組を推進していますが、圏域住民の方にとっての生活圏は坂出市や宇多津町なども身近な地域であり、そうした面でも住民の方の利益につながるよう、病院群輪番制のように、2市3町の枠組み以外でも、様々な市町と連携

	<p>した取組を継続して検討してまいります。</p>
原会長	<p>三谷委員の公共交通に関するご意見に関して、今年の瀬戸内国際芸術祭の期間中に市町を越えたバスルートを計画しているという話があったと思います。</p>
宇野	<p>先ほど「文化芸術・スポーツ等を通じた交流の促進」の説明の中で、瀬戸内国際芸術祭での広域巡回バスの停留所を圏域内の市町に設けると申しましたが、そのルートの中に坂出市や宇多津町の停留所も含まれており、こうした機会を捉えながら連携できる取組は進めています。</p>
原会長	<p>圏域を越えた区域での取組も実績をあげていくことで、ニーズを確認できたらさらに拡充していくことも検討してもらいたいと思います。</p>
草薙委員	<p>今年度から病児・病後児保育施設が1か所減となり、現在は丸亀市と善通寺市それぞれ1か所ずつという状況ですが、利用家庭のニーズからして適切なのでしょうか。例えば、小児科医が新たに病児・病後児保育施設を開設する際の支援についてはどのように考えていますか。</p> <p>それから、少子化の進展によって、都会の方では保育所の利用者の減少が進み、閉所が進んでいるというニュースが出ていますが、地方においても影響があることですので、保育所の広域利用の推進を強化して欲しいと思います。</p>
宇野	<p>病児・病後児保育について、成果指標の方に令和2年度の利用者実績が85名とありますが、コロナの影響によるものであり、令和3年度は231名と例年並みに戻っている状況で、圏域住民のニーズとしては引き続き高いものがあると認識しています。開設している施設の増減が見られる状況ではありますが、やはり医師会との協力があってこそ実施できる取組ですので、そうした協議は継続するとともに、行政からは委託料というかたちで支援を行ってまいります。</p> <p>保育所の広域利用について、保育施設の減少による待機児童の問題は、地方にとっても同じです。担当者間の協議では、まずはお互いの市町の利用状況を確認する作業を進め、利用者のニーズに合うものであれば広域利用の話を進めていくかたちで具体的な対応を進めています。</p>
原会長	<p>病児・病後児保育施設について2か所では不足しているのではないかという情報、あるいは現状を草薙委員はご存知ですか。</p>
草薙委員	<p>共働き世帯が多くなっている中で、保護者の方から施設を利用したかったが断られたということも耳にしたことがあります。1施設あたりのそもそもの受入人数が少ない上に、特に複数の種類の感染症患者が出るような状況にあっては、施設の減少は大きな影響があると推測しています。</p>
窪田課長	<p>数年前は4か所あったのが3か所、そして今回2か所となっている状況です。コロナの影響で利用状況の動向はおさえにくくなっていますが、確かに全体的な利用状況を見ると増えてきています。行政としては、需要と供給のバランスを見ながら対応を検討し、医師会とも協議を進めていかなければなりません。この場で担当課の意見をお伝えすることはできませんが、利用者の動向を把握しながら、今後の展開について、支援策も含めて検討していくことになるかと思っています。</p>

原会長	利用状況と合わせて、利用できなかった方の状況も適切に把握し、医師会との協議を進めていただければと思います。
草薙委員	利用者の家庭状況調査のようなものをされたことはありますか。  (各市町ともなし)
窪田課長	委員ご質問の視点での明確な回答は各市町とも難しいと思いますが、私どもの知る限りでは、病院側への聞き取りにより利用者等の把握はできているものと思います。
草薙委員	行政だけで考えるのではなく、当事者の声を生かしていただきたいと思います。グーグルのクラウドサービスなどを活用して簡単に調査もできますので、圏域の病児・病後児保育施設で実施していただけるとありがたいと思います。
原会長	インターネットでの調査についても事務局で検討いただけたらと思います。
佐藤委員	4点ほど質問があります。1点目は在宅介護の観点になりますが、丸亀市で取り組んでいる医療・介護連携システムの「まんでネット」を圏域に広げる方向性はありますか。 2点目は女性活躍推進の関係ですが、若い頃からの啓発活動は重要です。「女性活躍で光る職場を見学しようツアー」は、主に大学生を対象にしていますが、もう少し早い時期から参加できる機会があれば良いと思います。学校側自体の取組が基本になるのでしょうか、不十分なところがあれば、行政として働きかけるべきです。 3点目は少子化対策の縁結びマッチング事業に関して、いくつかの自治体から成果が微妙であると聞いています。現状として、どの程度の活動状況なのか、分かる範囲で教えてください。 4点目は、以前この会議でも話のあったワーケーションについては、その後どのような状況でしょうか。
宇野	まんでネットは、クラウドシステムを利用し、医療や介護の関係者が患者等の情報を互いに共有して円滑な診療を行うものです。住民の方は、住んでいるまちの病院だけに行くわけではないので、本来まさに広域で取り組むべき内容であると認識しています。ただ、やはりシステムを管理する委託業者への委託料など財政的な面もあり、担当課の方にも申し伝えておきますが、検討する必要はありません。 女性活躍の関係で若い頃からの啓発活動が必要ではないかのご意見については、「中小企業の活性化」の取組の中で、中学生に地元企業を紹介する事業を紹介いたしました。確かに高校生へのアプローチは課題となっています。民間の取組にはなりますが、香川県中小企業家同友会では、県内の高校を訪問し、地元企業の紹介を行う取組を始めたと聞いております。こうした民間の動きも大切にしながら、先ほどの見学ツアーの対象を高校生に広げることも検討してまいりたいと思います。 少子化対策に関しまして、かがわ縁結び支援センターでは、男女合わせて1,000名ほどの会員登録があり、最近では婚活イベントのような少しハードルが高いと感じるものだけでなく、ウェブでのマッチングも導入し、少しでも成婚が増えて

	<p>いく取組を進めていると聞いております。</p> <p>ワーケーションについては、先ほど「移住・交流促進事業」の中でも紹介させていただきましたが、まずは、圏域内のワーケーションに関する資源、ワークで言えばコワーキングスペースなど働ける場所の情報、バケーションの方では圏域の魅力的な観光資源やゆっくり過ごせるような自然環境などについて、映像やパンフレットなどの作成を検討し、魅力をアピールしていきたいと考えています。</p>
原会長	<p>縁結びマッチングに関しては、圏域内にも特設会場が2か所あり、丸亀市では参加者がかなりいると聞いております。ある程度の会員数があるのであれば、イベントについても共通の趣味の人を集めるといったテーマ性を持たせた内容にするなど、さらに成婚率を上げるために取組内容も変わってくると思います。</p> <p>善通寺市の特設会場はどのような状況でしょうか。</p>
小河課長補佐	<p>年間の利用状況等については把握できておりません。</p>
原会長	<p>丸亀市の方は補足がありますか。</p>
窪田課長	<p>丸亀市の特設会場は、開設日が土曜日ということで、利用のしやすさもあって評判が良いと聞いております。特設会場ごとの利用者数や成婚数については、かがわ縁結び支援センターの方でも公表しておらず、この場でお知らせすることはできません。ここ2、3年はやはりコロナ禍ということで、対面での縁結び活動が行えず、その対策としてオンラインによるマッチングを今年からスタートさせたというのが現状です。</p>
村井委員	<p>私どもの学校の住居環境課は建築の学部で、最近は特に本島の笠島地区に興味を持っており、学生と現地調査にも行っています。笠島地区も高齢化と空家問題を抱えており、関係者とともに伝建地区の未来を考えているところです。多度津町も町並み保存の機運が高まっていますし、琴平町や善通寺市にも古い町並みがありますが、同様に空家の問題はあると思います。空家を活用した移住施策を考える際に、行政は信頼性が高いので、この圏域でも専用サイトをつくって空家の情報などを発信しても良いと思います。空家の図面作成など、本校の学生も協力できるので、そうした取組を広めていければと思います。</p>
宇野	<p>空家と移住の関係については、県が主体となって移住の推進協議会を設けており、各市町も足並みを揃えて取組を進めています。この協議会が運営しているホームページでは、いわゆる空家バンクというかたちで、各市町の空家の物件情報が閲覧できるようになっています。この協議会での取組が主体とはなりますが、圏域として取り組める移住促進施策も引き続き検討してまいります。</p>
原会長	<p>移住につなげるには、相互にうまくマッチングするために、移住候補者にとってはその地域が自分に合っているかどうか、地域の側にとっても望ましいかどうか、長い目でじっくりと確認していくための最初の入口として、しっかりと情報提供することが重要です。伝建地区の話も、古い町並みや古民家などの魅力的なものがあって、それを大事にしようとしている地域なら自分も住んでみたいと思える、そうした1つのきっかけとしての情報提供も効果的だと思いますので、笠島地区だけでなく、圏域全体としてテーマを持って取り組むことも前向きに捉えていただけたらと思います。</p>

窪田課長	<p>移住定住については、基本的なスタンスとしては香川県を中心に取組を進めておりますが、圏域の中でも観光地や移住者インタビューなどのYoutube 配信を行っており、丸亀市では移住専用のホームページも設けています。圏域としてのさらなる連携手法は引き続き検討させていただき、村井委員のご意見にあった学生からの支援という心強いお言葉もしっかりと受け止め、今後もいろいろと相談させていただきたいと思います。</p>
大井委員	<p>私どもは地域福祉活動を行っている団体ですが、地域の中には一人暮らしや認知症の高齢者が増えてきている状況があります。そうした方たちの人権、権利擁護、いわゆる成年後見制度については、基本的に専門職の弁護士等で対応していますが、担いきれない状況で、法人後見として私どもの団体のほか、市民後見人も加わって対応しています。市民後見人の高齢化、それから、自治体によっては単独で市民後見人を養成するのが難しいという課題もあり、複数の市町が合同で対応できないかと感じています。また、住民の方が成年後見制度を利用される際に、隣の町の方が近くて利便性があるというケースもあります。他県では、広域連合で成年後見の取組を進めているところもありますので、この圏域でも検討できないか提案します。</p>
窪田課長	<p>成年後見制度については、丸亀市としても課題を持って取組を進めており、大井委員が所属されている市社会福祉協議会にも様々なご支援をいただいていると認識しています。中讃広域で実施している介護認定審査会等の取組の中で、審査会とは別に成年後見制度の運用ができないかというご意見かと思いますが、中讃広域での実施の可否について今私どもがここで言及するわけにはいきませんので、ご意見については中讃広域の方へお伝えさせていただきます。</p>
三谷委員	<p>コロナ対応に気が取られますが、私が心配しているのは、危機管理の面で「防災知識・意識の向上」の取組です。特に南海トラフ地震への対策として、各市町でも耐震診断や耐震工事の補助制度があると思いますが、丸亀市の中心部でも古い家屋が多くあり、民間住宅はどれ程の割合で耐震化が進んでいるのかと不安に思います。各家庭に対して、自分の身は自分で守ることの啓発を積極的に進める必要があります。また、大規模災害時には、圏域市町の相互の応援体制が非常に重要です。</p>
宇野	<p>阪神淡路大震災などで家屋の倒壊が多数発生し、民間レベルでも耐震化を進めていくことが課題となっています。丸亀市でも民間住宅の耐震診断や耐震工事に対する補助制度があり、様々な広報を通じて市民の方への周知に努めています。また、最近では災害が激甚化している状況があり、災害対応も広域での連携が必要であると言われております。まずは、圏域の防災組織や行政職員を対象とした広域視点での防災知識・意識の向上を図る取組を進め、災害時において最前線に立つ方が、さらに地域住民へとその意識を浸透していけるような取組を進めてまいります。</p>
原会長	<p>他にご意見がなければ、私の方からいくつか述べさせていただきます。まず、「ふるさと納税の促進」に関して、圏域で扱っている返礼品のセットものから検討を進めるとのことでしたが、そこでどのようなアイデアを生み出せるかが極めて重要ですので、圏域市町の担当者には、積極的に取り組んでほしいと思います。</p>

	<p>「広域観光の推進」では、教育旅行推進の話がありましたが、これまでの団体旅行が見直され、例えば農泊なども含めた分散型の宿泊が増えていますので、中讃圏域での観光資源の情報を広域的に整理して発信することが大切です。そうすれば、分散型の修学旅行に中讃圏域として対応できる可能性がありますので、これまでの観光資源だけでなく、分散型のコンテンツとして使えるような情報も集めて、ニーズに対応できる整備を進めていただければと思います。</p> <p>「ゼロカーボン社会の推進」、「食品ロス削減の推進」については、パネル展の実施だけでは取組が弱いと思います。私どもの大学院の方で、食に関する地域課題についてのグループワークをした際に、食品ロスに関する提案が非常に多くあり、学生がとても関心を持っていることが分かりました。圏域として大学等に働きかけて、具体的な意識の啓発につながる取組もぜひ進めて欲しいと思います。</p> <p>「広域的な消防力の強化」では、消防特殊資機材の共同購入等の検討を進めるとのことで非常に重要だと思いますが、取組の意義を住民に対してもしっかりと伝えていただきたいと思います。</p> <p>「文化芸術・スポーツ等を通じた交流の促進」では、女子バスケットボールなどメジャーなスポーツに焦点を当てていますが、香川県全体の特徴として、フェンシングなど意外とマイナースポーツが盛んな面もあります。マイナーであっても地域ならではのものに注目して取り組めば、若い人の関心につながる可能性があります。</p> <p>「圏域でのまちづくり活動支援」では、丸亀市の市民交流活動センターマルタスが注目され利用も盛んで、運営がうまくいっていると思います。圏域内市町とも連携して、他の地域にもマルタスの取組に近いようなことが広がれば良いと思います。</p>
三谷委員	<p>マルタスについては、市民活動に関心のある人材発掘が課題です。例えば、市職員の退職者はいろいろなノウハウを持っていますので、市民の先頭に立って人材発掘に寄与してもらいたいと感じています。</p>
原会長	<p>それでは、議事については以上とさせていただきますが、その他特に事務局からございますか。</p>
	<p>(各市町よりお礼)</p>
宇野	<p>(次年度以降の予定について説明)</p>
原会長	<p>本日は議事進行にご協力いただき、また貴重なご意見、多様なご意見をいただきありがとうございました。以上を持ちまして、本日の懇談会を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>